

広報 あいづ ばんげ

3

No.691
2022

目次 - CONTENTS -

2	伝統文化を広めるために 庄平のどろんご日記・まちの話題
3	国民健康保険の加入・
4	脱退の手続きは14日以内にしましょう!
5	令和4年 農作業標準賃金協定額
6	納期限および振替日のお知らせ
7	マナポイント第2弾を実施しています
7	お知らせインフォメーション
11	図書室だより・町史編さん調査余話(53)
12	こどもと健康の広場
14	真冬の夜空に花火が打ち上がりました

表紙：出動を待つ除雪車～防雪サングラス～車庫内で～

伝統文化を 広めるために

福島県教育委員会が主催し、心温まる体験談などを募集した「モラル・エッセイ」コンテストで、会

津農林高等学校三年生の大竹美保さんの書いた作品が最優秀賞に選ばれました。

受賞された大竹さんは、作品を書いた理由について、「小さな頃から本が好きで、高校では図書委員会に入りました。委員会の活動で聞いた『ばんげ読み聞かせの会』の日下先生が会津弁で語る会津坂下町の民話にとても感動し、『すばらしい文化である会津弁と民話をみんなに広めなければ。』と思ったことがきっかけです。」と、お話しただきました。

また、語り部として全校生徒へ民話を発表したことについては、「自宅で先生の手本を聴きながら、スマートフォンに自分の語りを録音し、聞き返しながら毎日毎日練習を繰り返しました。特に会津弁の特徴である語尾が上がる抑揚や、濁音の付け方などは覚えるのにとっても苦労しましたが、とても貴重な体験をさせていただいたと思います。この春には大学へ進学するので、出会った人たちとの会話も会津弁で話し、みんなに方言の良さや会津の伝統文化を広げていきたいと思っています。」とお話いただきました。終始笑顔で取材に答えていただいた大竹さんの言葉の端々には、会津の伝統文化を広めていく強い決意が感じられました。これからの活躍を期待しています。



▲日下先生から指導を受ける大竹さん



▲放送で全校生徒へ民話を発表



会津農林高等学校3年
大竹 美保さん（沼越）

民話の語りを通して

会津農林高等学校 三年 大竹 美保

「なんだあにしあ、むずせなあ。いっぺうまつちゃから、ぶんなげらつちやのがあ。」これは「身知らず柿の話」という会津坂下町の民話の一部です。私は昨年全校生徒への「読み聞かせ」で「語り部」としてこのお話を披露しました。

私が語り部をやるうと思った理由は、図書委員会で実施した「民話勉強会」で語り部の先生の語りが素敵で、直感的にやりたいなと思ったからです。また思いの外、他の人が会津弁を話せず驚いたと同時に、やらなければという使命感にかられました。私には祖父母がおり、小さな頃から方言にはなじみがあります。そんな私でも完璧に話し、理解することはできません。方言を話せなければ方言と相性のいい民話まで失われてしまいます。民話は古人の知恵話もあり、守るべき価値のある温かい伝統文化であると思いました。

「読み聞かせ」の担当が私になり、練習を重ねましたが、標準語との抑揚の違いに苦労しました。練習は先生の語りを録音し、自ら声に出して反復する方法です。何度か先生が来校し、語尾の発音や間などの指導をしてくださいました。だんだんと抑揚が会津弁に近付き、「上手になったね。」と褒めていただけるようになりました。全校生の前での発表は放送によるもので緊張しましたが、お話の情景を思い浮かべ、練習通りの落ち着いた発表ができました。発表後に同級生や先生方に「上手だったね。」と言葉をかけられ達成感と充実感を得ることができ、貴重な体験となりました。何より語り部の先生から「立派だったね。継承してくれてありがとう。」という手紙をいただき、とても嬉しく思いました。

民話は失われつつある大切な伝統文化です。方言と共に残された先祖の言葉であり知恵であり、消えてしまえば戻ることのない尊い文化です。私は先祖から受け継いだ伝統の灯を絶やさないためにも、今後どんな形であれ、語り部の継承を続けていこうと思います。